



中学生が本格的なニュース番組を制作！

～情報教育推進事業「中学生のための情報番組制作ワークショップ」を開催～

と き 8月3日（土）午後1時～5時

と ころ 日本大学芸術学部江古田校舎（練馬区旭丘2-42-1）

3日、区内の中学校に通う生徒19人が、日本大学芸術学部のスタジオ機材を使って、ニュース番組の制作を体験した。

これは、大量の情報が溢れている現代社会において、情報を正しく読み解き判断する力を身につけてほしいと、平成22年度から情報教育推進講座として区と日本大学が協働で実施しているもの。

番組中に流すニュース映像として、区内ブルーベリー観光農園を紹介する「みんなで知ろう！ブルーベリー観光農園」や、地域に同じ姓の人が多く取材した「なぜ同じ名字の人が多いのか？」など4つの「ご当地ニュース」を制作。同大学芸術学部の鈴木康弘教授の指導のもと、10日間かけて企画から撮影、編集作業までを行った。

スタジオではこれらのニュース映像を絡めながら、実際の番組制作と同様に演出、フロアディレクター、タイムキーパーなどの役割を中学生が担い、30分間の情報番組として仕上げていった。

演出を務めた女子生徒は「それぞれの役割をこなしながら、みんなで一つのものを作り上げる大変さと面白さを知ることができました。」と話してくれた。

この日制作した番組は5日、講師を務めた鈴木教授による講演会「テレビ・メディアを考える」で上映される。（当日会場受付、入場無料）



【スタジオ収録の様子】



【裏方をこなす中学生】

【スタジオ収録の様子】

午後1時、日本大学芸術学部放送学科主任教授 鈴木 康弘 先生の挨拶で講座がスタート。

キャスター役は同大学の学生2人が務め、中学生たちはキャスター以外の全ての裏方（「演出」、「フロアディレクター」、「タイムキーパー」、「カメラマン」、「照明」、「音声」など）を担当した。これは、充実した施設・設備の使用と専門の講師陣の指導により、情報番組を制作する仕事についても理解を深めることのできる職業体験等をねらいとしている。

番組は本物のニュース番組と同様に、キャスターの掛け合いと、中学生たちが編集したニュース映像を織り交ぜながら、30分間に仕上げていった。「タイムキーパー」の指示のもと、「フロアディレクター」は、大きなスケッチブックに「もう少しゆっくり」と書いてキャスターに見せたり、手を広げてカウントしたりと真剣な表情で自分の役割をこなしていた。

【情報教育推進講座について】

テレビやインターネットなど、さまざまな媒体で大量の情報が溢れているなかで、子ども達は情報を読み解き判断する力を身につける必要がある。そこで、企画立案・取材・編集・キャスター収録などニュース番組の制作体験を7日間にわたって行い、どのようにして情報が作られているのかを学び、情報を読み解き判断する能力の向上を目的に実施している。

【講演会について】

講演会「テレビ・メディアを考える」～番組上映と講演～

【日時】 8月5日（月） 午後1時～3時 【会場】 日本大学芸術学部江古田校舎E棟B1教室

【講師】 日本大学芸術学部放送学科主任教授 鈴木 康弘 氏

【問合せ】 青少年課 育成支援係 電話 03-5984-1292